

編集後記：気象学会の会員数の減少傾向もあり，魅力的な学会にするにはどうしたらよいか，「天気」を面白くするためにはどうすべきか，という議論が「天気」編集委員会で行われることがあります。その内容は別の機会に誰かがまとめてくれることを期待するとして，学会活動は仕事なのか趣味なのかという疑問が湧きました。大会で発表して論文を書くことを求められる研究者にとっては，学会は仕事と考えている人が多いと思われます。論文は仕事の成果物であり，評価対象となり予算確保のためにも必要となります。一方，気象に関する仕事をしていても，学会は個人的興味を満たすための趣味という人も多いでしょう。仕事に関する情報収集として認められたとしても，その活動に対して対価を貰うことはないと思われます。

仕事と趣味の違いは，一般的には，お金を稼ぐ／お金を費やす，生きるためにやるべき／生活には必要ないが面白い，他者に満足を与える／自己満足を得る，制約や拘束がある／自己責任の範囲で自由，などの違いが思いつきます。もちろん，仕事と趣味は区別すべきでなく仕事が趣味という考えの人も日本には多い気

がしますし，芸術家のように好きなことを仕事にしている人もいます。研究者も科学的な興味が募って仕事につながったという意味では芸術家に近いのかもしれませんが。もっとも，私の仕事は研究者で趣味はチェロ演奏ということになっていますが，それらが同じ範疇の営みとはとても思えないので，やはり仕事と趣味は別物と考えています。

ところで，投稿論文の採否や改稿を求めるための査読はボランティアで行われており，「天気」編集委員などの学会委員もボランティアです。ここでは，自発的な無償の奉仕活動をボランティアと言うことにしますが，ボランティアが趣味という人もいます。ボランティア活動は他者にも満足を与えることを目的とし，期限やめ切が存在することも多く責任も伴います。となると，学会活動の多くは，仕事でも趣味でもなくボランティアという範疇なのかもしれません。仕事でも趣味でもボランティアでも構いませんが，学会活動は楽しくあるべきというのが私は重要かと思います。皆さまはいかがお考えでしょうか。

(佐藤晋介)